

はないが)日本の通りの生活が出来る。

日本人と外國人との差は、其技術の點に勝り、魂氣の點で負ける。金のあるものは贅澤三昧で修業して、妻子と家庭を造つて遊び半分にやるが、貧乏なものは稼ぎながらやる、處が中には随分

下手な人が澤山あつて、年も取つて居る。日本人は少しでも自分より上手な人が多いと直ぐに失望落膽するが彼等は一向平氣である。日本人は成功を急ぐから途中で止めるが、彼等は撓まず屈せずコツ／＼とやる、粘り強い。(河合新藏氏談、アメリカ)

不自然と自然

尾形光琳の畫風は不自然の極、作り過ぎてゐると今まで見てゐたのは全くの無智識だつた、飘逸なる彼の風格も畢竟自然を摸倣したものだと初めて心づきは、京都の町から二里、鷹降村の光悦寺を訪ふた時である、光悦寺は本阿彌光悦が大虚庵のあ



と、光琳は光悦の弟子なるは言ふまでもない腰の高い障子を啓け、椽から南庭を不圖眺めると忽ち眼に入る土佐繪さながらの風致、一筆がきに半圓を畫いた鷹降山や、ぬつと枝を伸した梅や、濃い墨汁をあくまで含ませた筆をぼたりと落してずいずいずいと無

水彩畫研究會所五例二筆
相田寛彦

造作に引いたやうな三本松、氣韻縱橫、恐らく光琳は師の庵室のこゝに立膝して、あの寂びに寂びた天地のたたずまいに對し、悟入する處あり、それを物にしたのであらうと思ふ程にこの邊りの自然は其人の繪となつてある。

美術は自然以外ならざる限りを以て自然に或物を加へ、自然よりある物を減す。(平木白星氏、中學世界)